

2011年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

JKYB 関東支部 飲酒防止教育研究会

『ライフスキル形成を基盤とした未成年の飲酒防止教育のあり方』 ～ 家庭、地域との連携を深める ～

1 活動、研究の目的

本研究会では、一昨年は児童生徒、保護者用質問紙の作成と実施、昨年は質問紙調査結果のまとめと教材作成、薬物乱用防止教室の企画運営などの取組を行ってきた。質問紙調査結果から、学校と家庭とが一体となって、未成年飲酒について考える機会を設けることが必要であることを痛感した。そこで、保護者や地域に対して未成年飲酒の害に関する正確な知識を与えると共に、子どもを暖かく見守る姿勢を学校と共に育成していく必要があると感じた。そのためには、教師側の資質の向上も図りながら、生徒のみならず保護者に対しても適切な指導ができる、指導者の育成にも力を入れて取り組みたいと考えた。

2 活動内容

(1) 未成年の飲酒に関する保護者アンケートの実施

昨年度、児童生徒の質問紙調査と共に作成したオリジナルの保護者用質問紙を使って、埼玉県川口市A中学校において調査を実施し(2011.7実施、調査対象者1年生保護者174名、2年生保護者180名、3年生保護者172名、計526名)保護者の未成年飲酒に対する意識などの実態把握を行った。その結果明らかになったことは、「我が子に飲酒をすすめたことのある保護者が6%いた」「家庭において未成年の飲酒について話したことのある割合が、ない割合よりも低かった」「未成年の飲酒について高校生や大学生など、ある程度大きくなればよいという意見が多数あった」であった。これらの結果を、活動を企画運営する際の基礎資料とした。

(2) 研修会への参加

未成年飲酒防止教育を進めるにあたり、新しい情報や知識を習得して、見聞を広げるために研修会へ参加した。

『アルコール飲料と健康に関する講演会』への参加

厚生労働省の方による講演では、国としてアルコールに対する考え方、具体的な政策を最新の情報として学ぶことができた。文部科学省の方による講演では、本研究会がテーマに掲げている、生徒に対する教育とPTAへの対応について学ぶことができた。

『JKYB ライフスキル教育ワークショップ東京2011』への参加

この研修会は、指導法の最新情報さらに、全国の教育関係者と情報交換をする場としても大変重要な研修の機会となっている。今回も、国内の健康教育に関する研究をトップレベルで進めている大学の先生方による講義や、飲酒防止教育を積極的に進めている学校の実践発表など研修内容も盛りだくさんであった。

(3) 学校保健委員会における未成年飲酒防止教育の実践

学校における教育活動の中で、家庭や地域と連携して心や体について考える機会として、多くの学校で学校保健委員会を設置している。この機会を、有効に活用し、『アルコールの害を知り、将来の健康を考える』をテーマに学校保健委員会を企画した。埼玉県川口市B中学校では、全校保護者に学校保健委員会の参加を募ったところ、保護者の参加協力が得られた。まだまだ、保護者の参加は少ないが、生徒の取組や、学区内で開業している学校医さんからの、事例等を含めた未成年飲酒の害についての講演を聞くことができ、参加してよかったという感想を保護者からいただいた。

(4)保護者対象の喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実践

児童生徒を対象の中心とし、保護者や地域の方にも共に参加していただく、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実践は今までも重ねてきた。今回は、対象者を保護者に絞って、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室を実践することとした。

(5)指導者対象の学習会の企画運営

指導者同士の交流を図りながら、模擬授業等を通じて互いが切磋琢磨することを目的として指導者対象の学習会を3回行った。学習会の内容としては、実践報告者を募り各校での取り組みを発表し、研究協議をおこなった。その後、東山書房から出版されている、J Y Y B ライフスキル教育プログラム小学校5～6年生用、中学生用レベル1～3の5冊の書籍を活用し、授業の指導案を検討し模擬授業を行った。

3 成果

今年度は、未成年飲酒防止教育を通して、家庭地域との連携を深めることを研究テーマとして取り組んだ。本研究会の構成メンバーは、若手の養護教諭が中心である。学校の中で未成年飲酒防止教育を推進するためには、管理職の十分な理解を得たり、校内組織に働きかけたりと、若い養護教諭にとっては、様々な困難があった。しかし、未成年飲酒防止教育を通して、新たな企画をすすめる際にはどのようにしたらいいのかを学び、本研究会として様々な取組を、学校現場で実践することができた。これは、本研究会にとって大きな成果である。

さらに、生徒のみならず、保護者や地域へも未成年の飲酒について意識の高揚を図ることができたのは、今後につながる成果としてあげられる。今後も未成年飲酒防止教育をすすめる上では欠かせない、家庭や地域との連携をさらに深め、様々なアプローチを検討していきたい。

また、指導者対象の学習会は、大変意義深かった。家庭、地域と連携するには、教師の指導力を向上させることが重要である。今後も学習会を継続して、子どもたちのために魅力ある指導者を増やしていきたいと考えている。